音楽の才能があるみたいで、将来が楽しみだよ、といつもにこにこ話してくれた自慢の娘さんのこと、定年になったら一緒にいろんな場所を旅行したいと語っていた奥様のこと。

気のおけない仲間同士の集まりの機会には、君の

○

慎んで○○○○君の御霊前に、惜別の言葉を

述べたいと思います。

○○君の訃報に接して、最初に私の頭に浮かんだのは、君を失って誰よりも悲しんでいるだろう

ご家族のことでした。

弔　辞

話はいつも家族のことになっていきましたね。

突然のことではありましたが、ご家族とのお別れは安らかなものだったと伺い、それもまた君らしい、周囲への思いやりだったのかな、と思っています。

○

魅力について情熱を傾けて語った姿は、いまでもはっきり思い出すことが出来ます。

あの時、一〇人以上もの新入生が入部したことは、語りぐさになったほどです。

私の中では、君はいつまでもあの頃の山好きの

君との出会いは、大学のワンゲル部でした。

君は自分の好きなことに夢中になって取り組むだけでなく、後輩の指導にも熱心で、サークルを盛り立てていく立て役者でした。

　新入生歓迎オリエンテーションで、君が山の

青年のままです。

社会人となってからも、持ち前の頑張りと誠実な仕事ぶりで、着実に成果を上げてきたと聞いています。

それがようやく実を結び、これからは少し

楽をして、第二の人生をじっくり考えてみよう、という言葉が君の口から出ていた矢先のことだけに、予期せぬお別れが、どうしても信じられない気持ちでいっぱいです。

しかし、人生という道には終点はなく、ある日

ふと先が途絶えた時、それがその人の定められた

運命なのかもしれません。

残された者が癒されるまでには、もう少し時間がかかるでしょうが、安らぎの中に眠っているのだと信じています。

きょうここに、これだけ多くの友人が集い、君との永別を惜しんでいることは、君の人生が幸福なものであったことを、何よりも証明しています。どうか、ゆっくりと休んでください。

ご家族の皆さま、○○君との思い出は、わたし

たちの共通の大切な宝です。

心からお悔やみを申し上げるとともに、一日も早くお気持ちが癒えますことをお祈りいたします。

丸愛　太郎

友人代表

○○○○年○月○日